



富山県造形教育連盟会報「糸」について
富山県造形教育連盟は、幼、小、中、高の先生方が参加する、県芸術文化協会に加盟の文化振興の任意団体です。造形活動で大切にしたい発達段階という縦のつながりを考えることができる研究組織です。各校種の研究団体の横糸と、県造連の縦糸により、造形教育という織物が美しくつくり出されることを願い、会報を「糸」発行しました。本連盟の会員限定ページにて公開します。

夢を形に 富山県造形教育連盟 副会長 中島 淳二

iPhone14 っていくらくらい？14 っていうから 14 万円くらいかな。いやいや 23 万円のものもあるらしい？！ゼロ円スマホもあるのに・・・購入される方の価値観には、安価であるより新しくて魅力的な機能、さらには近未来の「夢」的なスペックにワクワクを感じている方もいるのかもしれない。かつて昭和の時代に堅実でより安価な製品を作る家電メーカーがありましたが、人件費や材料費を削りに削り、しかしながら、東南アジア諸国製品との価格競争には勝てず、堅実であることがジリ貧につながり、倒産する結果となった会社もありました。片やこのアップル社は、近未来のイメージを前面に押し出すことでうらやましいほどの上景気となっています。性能に直向きで安価な製品を作ることも大切ですし、「夢」を売る戦略で高価でも欲しいという消費者を取り込むことも素晴らしいことなのかもしれません。子供たちにとって図工・美術の授業には、未来に花開く発想力を育む大切な時間ともなります。わずかな変化や成長をいろいろな言葉で褒め、子供たちの記憶に残る楽しい時間になってほしいと願っています。

第20回造形教材研究会での題材紹介1

講師

富山大学教育学部付属中学校 宮田 苑佳

小学校高学年向けの授業として、「名前アート」という名刺デザイン授業を提案させていただきました。使用できる色数や塗り方のルールを決めた上で制作すると、色の学習を生かした工夫が生まれやすいです。子供たちに色の効果や、文字の形や色から受けるイメージを意識した工夫を考えさせることで、中学校でのレタリングや色の学習へと、学びのつながりも期待できます。



会報「糸」原稿募集

長年積み上げられた富山県造形教育連盟の会員各位の実践、読書紹介、実践紹介、随想等を、会報を活用し情報交換したいと考えています。ご協力をお願いします。

※ 事務局安岡までデータをお願いします。

yasuoka-toshiyuki@toyama-city.ed.jp

実践紹介3「僕たち・私たちの水族館！」

藤ノ木こども園担任：松原由依・笠松千華・釜崎成実

年中4歳児は、園外授業として“魚津水族館”に出かけました。向かう大型バスの中では、「〇〇いるかなあ？」とわくわく感いっぱい笑顔でした。館内では、アザラシやペンギンの動きを真似してみたり名前を呼んでみたりと、生き物たちへの興味が深まっていくのが分かりました。そんな楽しかった思い出を、今年度は紙粘土を使って立体表現することに挑戦しました。いつもの油粘土遊びとは違う感触を味わい、立体表現ならではの背びれや尾びれ、手足の付け方や色付けを工夫した作品には愛着もわき、友達と一緒に宝物のように眺める姿がありました。多様な表現方法を体験することの大切さを改めて感じた楽しい活動となりました。園の共同作品として展示してありますので、ご覧ください。



おすすめの読書紹介3 富山市立大久保小学校 橋本 友美
『学び合い高め合う「造形遊び」』 岡田 京子 編

造形遊びのよさは分かるものの、なかなか堅い頭の私には、材料や場所、空間の生かした題材を考えられなかった時に出合った一冊です。本書は、様々な材の実践事例を「教師の事前の準備」「活動の流れ」「子供の姿」等、見開き2ページにまとめられており、とても読みやすくなっています。子供たちが夢中になって取り組む写真から、本校の子供たちの場合、どんな展開になるかなと想像が膨らみました。

造形教育連盟の会員の皆様は、「A表現」を「造形遊びをする」「絵や立体、工作に表す」の二つの側面として捉え、「造形遊び」を大切に組み込んでおられますが、本書は、遊びを苦手意識にしておられる先生方に是非紹介したい1冊です。

〈随想 つれづれに 2〉

造形教育について考えること

高岡市立下関小学校 坂井 政信
夕食後、部屋にこもって木を削り、気付けば日が変わっている・・・それが私の最近の日課である。ものづくりは楽しい。時が経つことも今日うまいかなかったことも忘れ、リフレッシュできる至福の一時である。

造形教育とは、芸術家を育成することではなく、生涯に渡って「つくる楽しさ」「美しいと感じる心」をもち続ける人を育てること…とすれば、「自分の好みや狭い価値観、偏った目で子供の作品を見てはいないか？」「子供の思いを置き去りにしてはいないか？」と自分に問う。

図画工作科の授業の様子を覗いてみる。何やら夢中になって随分楽しそうだ。私は一人一人の楽しさを一緒になってどれくらい味わうことができているだろう？造形教育の第一歩は、それに携わる私たちの意識改革かもしれない。